



防コミの歩き方



小さな減災の取り組みを

もうすぐ阪神・淡路大震災から25年目となります。震災を経験していない神戸市民が約4割となり、震災の体験を伝えることが難しくなっています。

西区の枝吉校区ふれあいのまちづくり協議会では、隣近所の面識を高めることが、自助共助公助でいう、「共助」につながるものと考え、安否確認訓練や防災活動を工夫して実施しています。

安否確認訓練

枝吉自治会が主体になっておこなう安否確認訓練は、自治会の最小単位組織、各班を行動の中心に据え、年2回実施しています。これは、希薄になっている「向こう隣」の交流が目的で、班長が毎年交代することで大きな負担にならないよう工夫しています。

前年度実施しました「安否確認訓練」では、ゼッケンを付けて班長と2人で班内各戸を訪ね歩き、安否確認の情報や被害状況を数班単位の幹事（一時避難場所）を通じて、のぼりや旗を立て掛けた仮災害対策本部（福祉センターや小学校あるいは郷土館）に連絡することを訓練の基本としました。その際、民生委員などの協力も得ました。

防犯パトロールに伴う取り組み

毎月2回実施の防犯パトロールでは、全班長、町内地縁団体員、子ども会の親子と、町内全域約6キロ近くを路地から路地をくまなく歩き、街灯点検を兼ねた参加者のふれあい活動だけでなく、地域の地形状況、災害時の避難経路を把握してもらっています。

パトロール時には地域の城下町の歴史、区画整理前のため池や地形、各交差点の海拔、過去の河川氾濫の歴史解説もあわせて実施しています。参加時に興味を持ってもらえる仕掛けも必要だと考えています。

その他の活動

三宮の震災メモリアル「1.17希望の灯り」を分灯し、これを携えて枝吉まで歩く、「30キロウォーク」もすでに14回を重ねました。小学生や中学生、時に市職員、県議らも参加してもらっています。持ち帰った灯りは小学校で伝統行事「とんど祭り」の種火に供し、震災の語りにつなげています。

主催者の仕掛け作りひとつで、すべての行事を防災、減災につなげられたらと考えております。

(枝吉校区ふれあいのまちづくり協議会
防災安全部会長 北川富男)

